

第6期第5回（令和6年度第1回） 横浜市子ども・子育て会議 青少年部会 会議録	
日 時	令和6年7月26日（金）午前10時00分から午前12時00分まで
開催場所	Zoomによるオンライン開催
出席者	津富部会長、萩原副部会長、倉根委員、島田委員、辺見委員、梁田委員、三輪委員、矢尾委員、平森委員、横田委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者2人）
議 題	(1) 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について
情報提供	(1) 令和6年度青少年育成課事業について (2) 「横浜市子ども・子育て基本条例」の制定について (3) その他
決定事項等	議題について、委員に説明を行い、内容について意見交換をした。
<p><議事1>第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</p> <p>【事務局】第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について（資料3）</p> <p>（津富部会長） 利用者的人数だとか、告知に絡むような要素でかなり成果が決まってくるものが多いと思う。事業によって違うが、広報は、事業者だけでなく、市も協力していかないとなかなか広まらないという側面がある。</p> <p>（事務局） 事業所での広報も行っていたきたいが、市も一緒にしっかりとやっていくことが責務だと考えている。</p> <p>（三輪委員） 拠点について、自分の身近な生活圏の中で展開されているほうがアクセスしやすく、実際、そちらに参加している場合、どのように参加者の人数を確認しているのか。</p> <p>自立支援について、来所者を目標設定しているが、現実的にはそのような場を介さなくても自立していくというところに置いたとき、評価指標をどのように捉えるのか。</p> <p>（事務局） 現状、地区センターとかケアプラザで行っている取組の数値は、各所管で把握しているものを追認する程度にとどまっている。</p> <p>（三輪委員） 居場所づくりは他局でも行っており、中高生等の参加状況の把握は、所管事業だけでなく、横展開を検討していただきたい。</p> <p>（事務局） 来所者数が増えることが、必ずしも解決につながっているということではないが、それぞれの自立の形に関しては、段階を踏んで支えていくところを大事にしている。自立に向けての評価指標は難しいものがある。</p> <p>（三輪委員） 今の評価指標は来られた方の効果なので、知らなかったり、来られない方へのアプローチも大事。点検・評価方法については、御検討いただきたい。</p>	

また、青少年について、これから乳幼児を見るであろうという立場として捉える視点も検討していただきたい。

(事務局)

第3期計画では、前回いただいた御意見も踏まえて、つながりの部分もしっかり位置づけていきたいと思っている。

(島田委員)

ユースプラザについては、利用者の91%が状態が安定・改善しているということで、ひきこもり状態が安定しているというふうには捉えられなくもないが、一方で安定していればいいのかなど思った。

サポステの事業についても、63%が安定・改善しているということで、社会につながっていく若者たちが安定しているというのはすごく大切と思った。

身近な地域に向いた相談等の実施では、特にひきこもりから回復した方の体験談が好評を得たということで、満足度が99%と高いというのは、すごく充実していいなと感じた。

(事務局)

状態の安定・改善の考え方として、状態が安定しているといった点に関しては、施設の利用を継続して来られているというような考えに基づいている。

(津富部会長)

拠点が地域に対して手足を伸ばすような側面が弱いと、子ども・若者になかなか届きにくいので、アウトリーチ型の事業を増やすことや、末端まで届くようなワーク事業を入れるなどをすることで、様々な子ども・若者を拾い上げられると思う。

既にある団体とつながることも大事であり、また、メンタルヘルス不調によりひきこもっている子どもは、なかなか発見しづらい状態にあると思うので、拠点を設けるだけではなく、拾い上げていく工夫があったら良い。

(事務局)

いわゆる困難を抱える若者が多いような高校に、サポステ職員が出張相談という形で在校生や先生方の相談に乗ったりするアウトリーチ型の事業を行っている。しっかりとニーズなどを把握して、今後充実させていくようなところも1つ検討していきたい。

<報告事項1> 令和6年度青少年育成課事業について

【事務局】 令和6年度青少年育成課事業（事業概要抜粋）（資料4）

(津富部会長)

多少の見守りがつくような居住支援の事業がラインナップに入ってきた方が良い。

相談事業について、当事者が力を発揮できるような設計にしていくことが「こどもまんなか」とも重なる。

(事務局)

居住支援に関する内容については、第3期計画の中のどこかで取り上げていきたい。

当事者の意見を入れるという点に関しては、今年度からピアサポーター事業を始めている。当事者や実際に利用された方からもお話を伺いながら、今後の支援等に活かしていきたい。

(辺見委員)

こども基本法の施行により、自分たちが携わる子どもたち、青少年に携わるいろんな活動の方法等

も違ってくると思っている。青少年指導員としても努力しようと思っている。

(梁田委員)

若者は家族の中で育っており、その家族の中でいろいろな問題がある。複合的な問題をどこからひもといていくかということがやはり重要だと思うので、様々な支援機関が有効に使われることが望ましい。また、有効に活用され、それぞれの人たちが自分の力で立ち上がっていけるようになっていけたら良い。

(萩原副部長)

近年、ヤングケアラーの学生たちとの接触が増えてきているのを実感している。ヤングケアラーに対するワンストップの相談窓口も大事だが、それと同時に、自ら動ける当事者もいるので、市の具体的な施策が一覧化されていて、調べられるようになっていけると良い。

(事務局)

それぞれの方に応じた広報が考えられるので、いただいたご意見を踏まえ、できることを進めていきたい。

(倉根委員)

小中学生と話す時、困りごとは大人に話すよりも、同じ年齢の人と同じ悩みを共有できることを求める意見を聞く機会がすごく多かった。解決にすぐ結びつかなかったとしても気持ちを共有できる場があると良い。

(事務局)

どの事業でもそのような要素があると思うので、御意見を参考にし、仕組みづくりなどを考えていきたい。

(矢尾委員)

ヤングケアラーは、まだ認知が低く、家庭内のことなので外部からも気づきにくい。また、子ども自身も気づきにくい。アウトリーチや、周囲からどのようにつなげるか、という部分にも目を向けて欲しい。

(事務局)

学校や地域の方々へ広報啓発を今年度予定している。悩みごとを抱える子どもたちをキャッチできるような仕組みづくりを進めていく。

(横田委員)

青少年がすごく変わってきている。青少年施設が持っている役割を古きよきものとして、維持して欲しい。

<報告事項2> 「横浜市子ども・子育て基本条例」の制定について

【事務局】横浜市子ども・子育て基本条例（資料5）

(三輪委員)

この内容で確定か。

(事務局)

6月5日に議決されており、確定している。

(三輪委員)

子どもの参画、権利はどのような立てつけになっているのか。

子どもの意見表明については、子どもが主体的に関わることで社会が変化し、そのことで意見表明することに価値や意義を見出し、大人を信頼していくことが必要だが、その辺りのトーンが弱く感じる。

(事務局)

この条例は議員提案ということで、内容は市議員が内容を整理したものとなる。

自治体や国に対して、子どもに関する施策を実施するときはこどもの意見を聞いて反映をさせるということに努めるとなっているものを、より自治体レベルで実効性を高めるところに主な主眼を置いてつくられていると聞いており、特にこどもの意見の施策への反映というところに重きを置いているものとなっている。

こどもたちが主体的に関わって意見が反映されるという経験をすること、が大人になっていく上でもプラスになっていくという点については、条例の中でしっかり触れているところはないが、今後策定する第3期横浜市子ども・子育て支援計画にしっかり位置付けていく。

(三輪委員)

横浜市は地域福祉保健計画を地区別まで作成している。そのような計画との連動など、横断的に取り込めるような計画づくりを示してほしい。また、区や他局などの連動の中で推進できるような体制づくりをお願いしたい。

(島田委員)

こどもの「こ」の平仮名と漢字の使い分けは何か。

(事務局)

こども基本法に則り、現在は平仮名表記にしているが、今は混在している状況にある。

(津富部会長)

子どもの権利は意見表明だけではない。こども基本条例があると良いと感じた。

(事務局)

条例だけの範囲にとどまらず、こどもの育ち、こどもの意見、こどもの人権を守る、といったところもしっかり踏まえた上で第3期の計画を作っていく。

<報告事項3>その他

【事務局】

- ・記者発表資料「横浜青年館 M-base 南区青少年の地域活動拠点」リニューアルオープン イベントを開催します(参考資料)
- ・記者発表資料「居たい」「行きたい」「やってみたい」こどもの居場所づくりのワークショップを開催します！(参考資料)

(三輪委員)

子どもたちに聞いて終わりという状態ではないところを目指して、意見を聴取していただきたい。

予算的に難しいと思うが、施策上、青少年の地域活動拠点づくり事業は拡充となっているので、同じ施設ではなくても、別の居場所を活動拠点に位置づけることや、地区センターの活動をアウトリーチ的に行うことなども、居場所づくりの実現に向けては大事な視点だと思う。

(事務局)

地区センターやケアプラザなどの既存の施設との連携は進めていきたいと思っている。併せて区の

意見の確認や、それぞれの関係者の方が集まり、連携が進められるような機会をつくっていきたいと考えている。

(萩原副部長)

メインのターゲットを中高生と考えているのであれば、こどもの居場所というこのタイトルが気になる。高校生になると18歳成人も含まれる。社会の目線として、若者ということも意識して広報をかける必要もあるのではないかと感じた。この内容だと小学生向けとってしまう生徒たちもいるかもしれない。広報に関しては、対象の年代を意識したネーミングを考えたほうが良いと感じた。

(事務局)

メインターゲットに伝わるよう、丁寧に確認していく。

(島田委員)

意見を言いやすい子どもだけでなく、意見を言いづらい子どもたちの気持ちを汲めると良いし、そのサポートを期待したい。

(事務局)

今回、できるだけいろいろな子ども・若者が来られるようにしたく、また、自分たちの身近な居場所ということで今後活用してもらおうというきっかけになるよう、近隣の中学校の校長先生にお願いをさせていただいている。

閉 会

資料	資料1 資料2 資料3 資料4 資料5 資料6 資料7	横浜市子ども・子育て会議青少年部会 委員名簿 横浜市子ども・子育て会議青少年部会 事務局名簿 第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画点検・評価について 令和6年度青少年育成課事業（事業概要抜粋） 横浜市こども・子育て基本条例の制定 横浜市子ども・子育て会議条例 横浜市子ども・子育て会議運営要綱
参考資料		・記者発表資料「横浜青年館 M-base 南区青少年の地域活動拠点」リニューアルオープン イベントを開催します ・記者発表資料「居たい」「行きたい」「やってみたい」こどもの居場所づくりのワークショップを開催します！
特記事項		